C－60

貞明皇后御創案の宮廷服について（その1 ― 宮廷礼服）

羽衣学園短大家政　○久保房子

目的　貞明皇后は、皇太后になられてから幾種類もの服装を自ら考案されておられるが、その一部をさきに調査することができた。今回は、第2次大戦後の数年間、唯一の宮廷礼服として着用された服装について、デザイン、裁断、縫製等の実態を解明する。

方法　現存する実物資料の実地調査及び製作関係者、着用経験者の証言、写真等。

結果　この服装は上下二部式で、独得な形の袖を持つ短衣を前で打合わせた上に、同地質の切袴を着用するようにデザインされ、小袖袴等に似通ったところがある。
上衣の裁断、縫製は小袖とほぼ同様である。袴の裁断は袿袴用の切袴と等しいが、地質の関係から小袖式の縫製法がとられている。この服は元来茶席用として考案されたものであるが、地質や色目、文様等を変え、又服の一部を手直しすることによって、種々の用途の衣服を生み出せる応用範囲の広い服装である。
国土荒廃、物資不足の戦後において、この簡素で古雅な趣のあるデザインが宮廷礼服として用いられたことは誠にふさわしいことであり、皇太后の服装に関する御造詣の深さをも示すものである。